

令和2年度教育活動方針

令和2年4月1日
岡山科学技術専門学校
校長 大月 秀之

I 教育理念

技術教育を通じての人間教育

II 教育目標

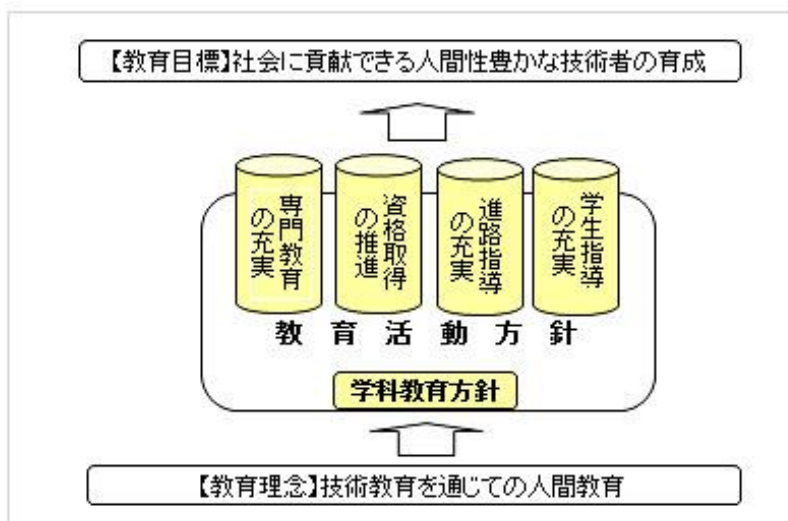
- 1 社会の要請に応える人間性豊かな技術者を育成する。
- 2 社会における果たすべき使命を自覚し、創意と工夫のできる技術者を育成する。
- 3 科学技術に積極果敢に取り組む、誠実で逞しい精神力を備えた技術者を育成する。
- 4 自他の健康と安全に配慮ができる、健康で明朗な技術者を育成する。

III 教育方針

- 1 専門教育の充実
- 2 資格取得の推進
- 3 進路指導の充実
- 4 学生指導の充実

IV 教育体系

教育理念の下、上記4項目を教育活動の柱とし、全教職員が教育の活性化に努め、教育目標の実現を目指す。



教育体系

V 本年度の具体的方針と重点課題

社会は情報化、国際化、少子高齢化が一段と進み、職業教育の重要性が一層高まる中、今年4月には「高等教育の就学支援新制度」が始まる。近年、専門学校に対しても情報公開と教育水準の向上が求められる状況であるが、新制度の下で専門学校の学生に対して税金が使われるようになればこれまで以上の要求があることは間違いない。

教育レベルの向上を目的に、本校ではPDCAサイクルの機能を教育実践に活用している。基本的な流れとしては教育活動方針に従い学科ガイドブック等(Plan)を作成し、教育活動を実施(Do)、年度末に自己評価その他の調査(Check)を行い、次年度の教育活動方針に反映(Action)させるという構成となっている。

令和元年度の自己評価の結果、教育活動の項目で、学科ごと・教員ごとの取り組みの足並みがそろっていないことが明らかとなった。そこで令和2年度は、「原点回帰」をキーワードに、工業系専門学校である岡山科学技術専門学校の教育と、それを行う教職員のあるべき姿を再構築したい。併せて「岡山科学技術専門学校三つの方針(募集方針、教育目標、到達目標)」の策定を行い、教職

員の共通理解を進めたい。

1 6 S管理の徹底

(1) 具体的方針

- ① 職員室（事務室も含む）の管理
整理、整頓、清掃、清潔机上を整頓し、周りに積み上げた物が無い、見通しの良い明るい職員室（事務室）を目指す。
- ② HR教室の管理
汚れ、ごみ、不要な物が無い美しい教室、落ち着いて学習できる教室を目指す。
- ③ 高柳校舎実習場の管理
必要な装置が整然と並んだ、安全で美しい実習場を目指す。
- ④ 昭和町校舎実習室の管理
機器等を整然と配置するとともに、きれいで明るく美しい実習室を目指す。
- ⑤ 実習の管理
学生が意欲を持って臨め、真に学習効果の上がる実習指導を目指す。
- ⑥ 授業の管理
学生が意欲を持って取り組む、分かり易い授業を目指す。
- ⑦ 授業中、校外研修、通学途上等の学生管理
授業中等の学生の動向に細心の注意を払い、事故等のないように指導する。

(2) 重点課題

「躰」とは、生活全般に根ざした根源的な事柄を教えていくことで、「やって良いこと」と「やってはいけないこと」の区別をつけさせることが目的である。令和2年度は、なぜ6 S管理が必要であるかを学生にきちんと理解させる「躰」を行うことで、6 S活動の定着度を向上させたい。

2 専門教育の充実

(1) 具体的方針

- ① 授業の工夫・改善
基礎・基本の定着を図り、学生が主体的に学ぶように授業を工夫する。
- ② 「職業実践専門課程」認定学科としての教育の質の保証
企業と連携した、社会の変化に対応できる実践的教育を充実させ、確かな技術力を身に付けさせる。また、インターンシップを活用した実践的教育の充実を図る。
- ③ 資格取得の一層の向上
目指す資格を明確にし、学科を挙げた組織的・計画的な指導を徹底する。

(2) 重点課題

社会の変化に対応できる実践的教育を目的に、年間100時間程度を目標にインターンシップを実施してきたが、休暇減少による学生の疲労や指導教員の負担増などの弊害が顕著となったため、今年度は時間にはこだわらず、質的な充実を目指したい。

また令和元年度自己評価の結果から、学科内での教育方針等に対する認識に差があることが明らかとなった。本年度は学科の教育目標、到達目標を策定することを目指しているが、教員間のコミュニケーションを促進して問題意識を共有することにより、活発な議論を行いたい。

3 学生指導の充実

(1) 具体的方針

- ① 基本的な生活習慣の確立
社会人としての豊かな人間性を育むため、あいさつの励行や社会人マナーの教育を行う。また、授業を大切にしている指導を通じて学ぶ意欲の高揚を目指し、進級率・卒業率95%以上を目指す。
- ② 学生の状況を把握する

学生との意思の疎通に努めるとともに、保護者との連携を密にし、信頼関係の構築、退学をさせないきめ細かい指導を徹底する。

③ 禁煙指導

特に留学生に対し、健康意識の高揚を図り、健康管理に努める。

(2) 重点課題

問題のある学生に対しては、保護者との連携を密にし、基本的な生活習慣の確立や授業を大切にしている指導を行ってきたが、共働き家庭や留学生の増加により従来通りの対応が難しくなってきた。本年度は、学生とのコミュニケーションを促進し、信頼関係の構築と、問題点を早めに見つけることを目指し、状況の改善に取り組みたい。

4 進路指導の充実

(1) 具体的方針

① 関連部署の連携強化

就職推進課と各学科との連携を密にして積極的に企業訪問を行い、一人ひとりの適性を生かす就職支援を推進する。

② 社会人教育の充実

ビジネス教養や一般教養の授業を充実させ、社会人としての素養を身に付けさせる。

③ 卒業生の支援

同窓会、企業後援会との連携を密にし、卒業後の動向の調査・確認等を通して就職支援や職場定着に役立てる。

(2) 重点課題

企業へのアンケート調査において、挨拶ができないなどコミュニケーション能力の不足を指摘する意見が複数寄せられた。前項（3 学生指導の充実）とも重複する部分もあるが、学生とコミュニケーションする機会を増やし、特に挨拶の励行を徹底したい。

5 留学生の指導・支援の充実

(1) 具体的方針

① 日本語能力の向上

N2合格と会話力向上に向けた組織的、計画的な指導に取り組む。

② 専門科目の指導の充実

専門科目の指導方法の工夫に努める。

③ 進学指導・進路指導の充実

日本語学科では進学に向けたガイダンスや就職を見据えた専門学科の授業見学を行う。また工業専門課程においては、ガイダンスやインターンシップの実施等により、就職に向けた意識の向上を図る。

④ 生活実態の把握と支援

生活習慣の確立に向けた支援を充実するとともに、出欠、アルバイト、宿舎等の生活状況の把握を徹底する。

(2) 重点課題

日本語教育強化の一環として、本年度は特に会話力の充実に努めた取り組みに力点を置きたい。

6 学生確保

(1) 具体的方針

① 協調体制の確立

広報企画課、学科、進路指導課がより協調し、情報の共有と多角的な分析、役割の明確化を図り、学科の魅力の効果的な発信を行い、学生確保に努める。

② オープンキャンパスの改善

オープンキャンパスの方法および内容の工夫と改善に努め、当面は歩留まり率 60%の達成を目標とする。

(2) 重点課題

本年度は「心に残る何かを与える」をテーマに、オープンキャンパスの充実に取り組み、歩留まり率の向上を目指したい。

7 教職員の資質・能力の向上

(1) 具体的方針

① 教職員面談

年3回の面談を通して意思の疎通を図り、教職員の個々の目標（教育活動方針や学科教育方針を踏まえた内容）の達成、資質能力の向上と学校組織の活性化に努める。

② 教職員研修の充実

年1回、学生理解や指導力向上に向けた教職員全員研修を行う。また、各学科専門力向上に向けた教員研修を計画的に行い、報告会等を通して情報を共有し、資質、指導力の向上を図る。

③ 公開授業の充実

公開授業を実施して授業力の向上と学科教育の充実を図る。また、実施後、意見交換会を開き、授業の改善に努める。

④ 資格取得の推進

教職員の資格取得への積極的な挑戦を奨励する。

(2) 重点課題

教職員の資格取得を進めてきたが、日常の業務が多忙となってきたこともあり、近年低調である。学生にとって目標となりえる教職員であり続けるためにも、本年度は積極的な挑戦を奨励したい。

以上